

支援業務課 NEWS

優秀畜産表彰地方審査委員会の開催

中央畜産会においては畜産振興に資するため、優秀事例を選定し表彰する優秀畜産表彰事業を行っています。当県においては地方審査委員会を8月28日に新潟市において開催し、経営部門の審査を致しましたので、本年参加経営の概要について報告致します。

(酪農経営)

加治川村大字金塚：阿部武雄 氏

阿部氏は稲作と酪農の複合経営で、経産牛45頭規模であります。経営の特徴は次の通りです。

①飼養管理の効率・省力化のための施設・機械整備
搾乳作業において、ユニット搬送レールを設置し、懸架式パイプラインミルクカーと自動離脱装置を利用した後搾り方式を導入し搾乳作業の軽減と効率化を図っています。また飼料給与面等においては自走式コンプリートフィーダー、細霧システムを導入し、飼料給与労働の軽減と乳量、乳成分の安定化を図っています。

②良質堆肥生産と販売

電柱やパイプハウスを利用した堆肥舎を建設し、低コストで堆肥生産を行っています。堆肥販売に当たりPR用チラシを作成し良質堆肥販売を行っています。

③河川敷を利用した共同牧草生産

未利用となっていた河川敷を借地し、4戸で草地組合を設立して共同で機械を導入し、共同作業により低コストの牧草生産を行っています。

④安定経営への取組み

施設整備や機械導入に当たっては、投資を数年に分散させ、可能な限り自己資金で対応しています。また、コンピュータを利用した経営管理を行い高い自己資本を維持しています。

酪 農

区 分	経営実績	県 指 標
経産牛平均飼養頭数	45.1	—
所得率	23.6	20.0
経産牛1頭当り年間産乳量	8,123	8,800以上
乳 脂 率	3.96	3.6以上

(肉用牛経営)

豊浦町大字中の通：猪俣一直 氏

猪俣氏は稲作と肉用牛の複合経営で、交雑肥育173頭規模の肥育経営です。経営の特徴は次の通りです。

①行き届いた飼養管理

牛舎の管理や牛床の湿気防止に配慮した飼養環境

作りに努めています。また増体成績を考慮し十分に飲水ができるようにしています。哺育育成牛の管理については牛舎を3棟設け一定期間の空房と殺菌消毒をしっかりと行っています。

②低コスト経営の取組み

古電柱を利用した牛舎やパイプハウスを利用した哺育育成舎を活用し低コスト経営を実践しています。施設・機械等の購入は自己資金で対応しており、財務内容は安定しています。

③銘柄牛販売の取組み

肥育牛仲間8名と地域銘柄「豊浦牛」を生産して、地産・地消の推進と生産者の顔が見える牛肉販売に努めています。

肉用牛

区 分	経営実績	県 指 標
肥育牛平均飼養頭数	172.6	—
所得率	18.5	15.0以上
販売肥育牛1日1頭当り増体重	0.97	1.0以上
対常時頭数事故率	2.9	3.0以下

(養豚経営)

川西町大字中屋敷：平野清志 氏

平野氏は養豚専業で母豚100頭の一貫経営であります。当該経営の特徴は次の通りです。

①地域養豚防疫体制を核とした衛生対策

隔離豚舎利用組合や中魚沼養豚防疫対策協議会、中越オーエスキー病防疫対策協議会等の組織活動を核として衛生対策を確立しています。特に生産現場でのHACCP方式の導入は豚群の清浄度維持や衛生マニュアル遵守による生産管理が徹底しています。

②生産資材等の共同購入によるコスト低減

飼料並びに生産資材の購入に当たっては、仲間と共同購入を行い購入単価の引き下げに努めています。

③銘柄豚の生産と販売の取組み

優良な母豚群を基礎として、ハーブ粉末を添加した飼料を給与し「妻有・健康豚」を生産しています。また、飲み水には活性水を混入し健康管理に努めています。

④計数管理に基づいた健全経営

正確な記帳・記録による計数管理と無借金経営により安定した財務内容が保たれています。

養 豚

区 分	経営実績	県 指 標
種雌豚平均飼養頭数	101.2	—
所得率	21.0	15.0以上
種雌豚1頭当り年間離乳子豚数	22.3	23.0以上
種雌豚1頭当り年間肉豚出荷数	21.5	23.0

畜産経営セミナーが開催される

9月4日に平成14年度の畜産経営セミナーを開催致しました。本年度のテーマは平成16年に向けた家畜排せつ物の適正化処理の推進及び良質堆肥生産への意識を高め、畜産を軸とした地域農業との調和を図ることを目的にしております。

講師には群馬県畜産協会経営支援部長 塩原広之氏と神奈川県農業総合研究所農業環境部長 藤原俊六郎氏から講演をいただきました。参加者は畜産経営者並びに県、市町村、農協の担当者など73名の出席がありました。

演題：「畜産環境保全と今後の経営課題」

講師：群馬県畜産協会経営支援部長 塩原広之氏



演題：「耕種農家からみた堆肥の品質と利用」

講師：神奈川県農業総合研究所
農業環境部長 藤原俊六郎氏



トピックス

ふん尿処理施設を導入する上での注意点

1. 計画通りに処理できることが最優先!!

実際に多くある失敗例

- ① 計画通りに堆肥の水分が下がらず、大量の副資材が必要になった。
- ② 容積・面積が足りずにふんや尿が溢れ出す。
- ③ 逆に、必要面積に比べ、施設面積を大きく設定しすぎた。

導入する施設の特質をよく理解し、その施設が処理条件を満たすことができるかどうかを十分検討しておく必要があります。

2. 見積内容をよく点検する

提出された見積書をよく見ると、堆肥貯蔵庫など必要な部分が抜け落ちている例が多く見られます。当初の見積では最も安価なメーカーに決めたつもりでも、工事完了までに様々なオプションが必要となり結局高くなってしまった、と後悔しないためにも見積書の内容を必ず確かめておく必要があります。

3. メーカーの保守体制も重要

施設がうまく運転されない理由には、管理者の落ち度による部分が多いことが挙げられます。しかし、管理者に落ち度をもたらす様な施設の構造になっていたり、操作を間違いやすい仕組みになっていることも要因として挙げられます。

メーカーは、誤操作を防ぐために操作方法を大きく書いた掲示板を用意したり、万一不具合が生じた時の対応を記したマニュアルを用意したりすることが少なくとも必要でしょう。

導入にあたっては、メーカーのサポート体制について事前に十分確認しておくことが重要です。